マルティネルの街角で

YKI 国際特許事務所　弁理士◇葦原 エミ

Vol. 2　そんなつもりじゃなかったの。。。

日本語を習い始めた、中国からの訪問者のご挨拶。

Mr. X：「ボクの愛人を紹介します」

筆 者：（えっ、えっっ！？　なんて大胆な。。。）「そ、そうですか……」

Ms. Y：「妻の○○です」

筆 者：「は、初めまして」（ア、あれぇ？　ちょっとガッカリ）

ということが本当にあったかどうかは忘れちゃいましたが。

日本の漢字のルーツは中国。でも、「愛人」は中国ではれっきとした「配偶者」を意味するらしい（意味としちゃ、そのほうが正しい気がするけど）。どこでどう間違っちゃったのか……。

※ 撮影協力：デリリウムカフェ＋キョー（霞が関）

漢字を使う国だったら、「意味はどこでも同じでしょ？」とアルファベット圏の人は思うようだが、そうは問屋が卸さない。あ〜らビックリの意味の違いは「愛人」だけにとどまらない。

中国で「手紙」は「トイレットペーパー」を意味するらしい。「愛人に手紙を渡した」なんて言ったら、なんだか、艶めかしい、その後、切ない悲劇が待っていそうな……。はたまた、そこから２時間ドラマが始まっちゃいそうな？

が、しかし、中国語で意味を考えると「トイレットペーパーをダンナ（または奥さん）に渡した」となりそうで、一気に生活感を帯びてくることになる。意味、全然違うじゃんっ！！

そういえば、とある事件の説明をした通訳さんが、殺人事件の背景に「密室の恋」が絡んでいた、と訳してしまったが、実は「未必の故意」だった、という話があったような、なかったような……、全く関係ないか。

閑話休題。

幸い、商標出願に「指定商品（役務？）『愛人』」なんてのが登場することはない（と思う）。でも、「手紙」という言葉は、場合によっちゃ使うかな（「手紙の配達」とか）。こういう「あぁ、勘違い」しちゃいそうな「意味が全く異なる同じ単語」はあちこちに見られそう。だから、中国語圏に出願するときは、日本と同じ漢字表現があったら、そのときこそ要注意です。ちゃんと、その漢字で表されているブツが、あなたの考えているブツと同じかどうか、チェック、チェック、チェック！

どんな言語でも、翻訳されるその瞬間、誤解の危険性はアップする。シンプルな表現ほどアブナイ。海外から「至急、出願を頼む！　指定商品はContainers of metal」と指示がきた。さあ、あなたならどうする？

①クライアントのHPを見て、どんな容器か考える。

②「デカい会社だ、コンテナだろ？」と結論づける。

③「コレ、いったい何ですか？　For liquid fuelとかfor transport ？」とすぐに問い合わせる。

正解は③（だと筆者は思う）。緊急時こそ冷静に。と簡単に言いますが、多義だってことに初めから気づくようならまだ上出来。

「『コンテナ』を指定してしまったら、実は『容器』でしたぁ〜。６カ月後に拒絶がきて誤訳しちゃったことが分かりましたぁ〜」、なんて、そんな恐ろしい経験はまだないけど（いやいや、今後も要らんけど……）。

「そんなつもりじゃなかったの」みたいな落とし穴に、ご用心、ご用心。